

館報	下 粟 津	第95号	下粟津町勢 <small>(平成30年11月現在) (29年11月)</small> 世帯数 567世帯(+4) (563世帯) 町民数 1,968名(-14) (1,982名) 男子 927名(-3) (930名) 女子 1,041名(-11) (1,052名)
	ホームページ http://shimoawa.sakura.ne.jp		下粟津 <input type="button" value="検索"/>

11/3
土曜日

公民館まつり

11/4
日曜日

ご来場ありがとうございました

Blue Area アコースティックライブ



G-PULSATIONミュージックショー



矢田野小学校 マーチングバンド



月亭方気 落語ステージ



後出先生 マジックショー



ご来場の皆様



11月3日(土)、4日(日)、下粟津会館にて公民館まつりが開催されました。館内には町内の皆様からお寄せいただいた、多数の作品が両日にわたって展示され、日頃の修練の成果をご披露いただきました。

3日の午後は子供お楽しみ会が開催されました。ここでは映写会、ビンゴ大会が行われ、子供達は大はしゃぎでした。午後6時30分からお茶会、午後7時からは“桃山会”による詩吟発表、そして“琴きらら”による大正琴演奏が催され、どちらもご来場のお客様が唄に参加するなど、日本の伝統文化が調和した素敵な時間を過ごしました。

4日は時折小雨がぱらつく曇り空となりましたが、多くの皆様にご来場いただきました。屋外では各種模擬店の他、JA即売会、その後矢田野小マーチングバンドによる販売、フリーマーケット、餅つき、ゲームコーナーが、屋内では飲食コーナーが設けられました。

10時から舞台発表。“加賀の太鼓 小町&無限道”による太鼓演奏を皮切りに、“太極拳麗姿クラブ”による演舞、“踊りの会”による舞踊へと続き、白嶺幼稚園と矢田野こども園のかわいらしいお遊戯が演じられました。

そして午後からゲストコーナーへ。まずは元矢田野小学校教諭・後出先生によるマジックショーが演じられ、大きな歓声が上がりました。続いて【石川県住みます芸人】月亭方気さんによる落語ステージが始まり、会場は爆笑の渦に包まれました。

そして屋外へ出て、音楽ステージへ。まず矢田野小学校マーチングバンドによる演奏、それから北一組の肩谷道明さん所属のバンド、Gパルセイションによるミュージックステージへと続き、会場は大盛り上がりでした。

演奏後、矢田野小マーチングバンドの皆さんを巻き込んでの写真撮影会が急遽始まり、ここでも大盛り上がりでした。屋内に戻って、音楽ステージの最後を飾ったのは、小松市出身の女性デュオ・ブルーエリアによるアコースティックライブでした。その力強いパフォーマンスに、たちまち観客は魅了されました。

最後に、月亭方気さんとブルーエリアのボーカル・まさみさんとのコンビでの司会で、抽選会が行われました。一緒に仕事をされたのは初めてとのことですが、息がぴったりの掛け合いを演じておられ、抽選会の間、会場は何度も爆笑の渦に包まれました。

ご来場いただいた皆様、運営にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

お楽しみ会(子供会)



お茶の会



詩吟(桃山会)



大正琴(琴きらら)



加賀の太鼓 小町&無限道



太極拳(麗姿クラブ)



踊りの会



白嶺幼稚園



屋内催し

矢田野こども園



抽選会



屋外催し



公民館長挨拶



餅つき(親和会)



★焼き鳥(壮年会)



豚汁(明るい町づくり委員会)



矢田野小マーチングバンド & Gパルセーション集合写真



無料ゲーム



ゲームコーナー(子供会)



フリーマーケット



JA即売会

矢田野校下駅伝継走大会

見事優勝!

11月11日(日)第49回矢田野校下駅伝継走大会が開催されました。薄曇りの晴天のもと、校下6町を5名の選手がタスキをつなぎ、ゴールを目指して力走しました。

結果、我が下栗津チームは、2区でトップに立った後、後続をグイグイ引き離し、圧倒的な勝利を収めました。そして2区、3区では見事区間賞を取りました。選手・役員の皆様、お疲れ様でした。

【駅伝メンバー】

- 1区 小林 優貴
- 2区 西森 良介 (区間賞)
- 3区 城宝 芳彦 (区間賞)
- 4区 中川 琉哉
- 5区 大桑 勝利



平成三十年度初老

奉納 一、金参拾萬円也

◆美馬会の皆様

西畑 憲一
 松森 良介
 江口 浩也
 西江 浩司
 石黒 大志
 穴本 正則
 山本 芳史
 松出 隆治
 西崎 敦史



今年を振り返って

町内会長 谷敷 敏一

今年一年皆様方には、温かいご支援、ご協力を賜りまして、心より御礼申し上げます。

一月は五六豪雪以来の大雪で、あちこちで車が立ち往生し、家屋の損壊もありました。またご近所総出で除雪作業をされている光景もありました。七月の豪雨では消防車に出動して頂き、土嚢を積んで浸水をくい止めて頂きました。皆様大変ご苦勞様でした。

整備関係では北2組、西1・2組の用水路に標識ポール設置。福祉会館に「ミ」かごの設置。南4組の道路陥没改修。以上が完了しました。

小松市では除雪機を購入する町内に七〇%補助することになり、町内で除雪機を五〇万円で購入いたしました。市の補助金は三五万円、町内負担金は一五万円です。頭無埋め立て問題は、十二月協定締結、二〇二〇年六月着工、二〇二一年三月完成予定です。今後も町内会役員一丸となって工事の進捗に遅れが出ないよう強く要望してまいります。

一年を振り返って

公民館長 岡山 晃宏

今年、大雪に始まり大雨、台風、猛暑、地震と例年にも増して自然災害の怖さを感じる事の多い一年となりました。町民の皆様におかれましては不安な生活を送られたこととお察し致します。

さて今年も三月の校下バレーボール大会に始まり十一月の校下駅伝継走大会まで、台風の影響で中止となった社会体育大会以外のすべての校下・町内の公民館行事を終える事ができました。特に伝統三大行事であります町民大運動会・仮装輪踊り・公民館まつりは天候にも恵まれ各種団体、町民の皆様のご協力のもと、無事開催できた事を嬉しく思うと同時に、公民館の最大の目的であります町内の活性化、人と人との繋がりに少しでもお役に立てたのではないかと安堵致しております。

今年新しい試みとして公民館まつりの町民アンケートを実施し、町民の皆様のご意見を一つでも多く実現するために執行部みんなが知恵を出し合い、また各種団体、各組組長、各サークルのご理解、ご協力も頂きながら取り組んでまいりました。

お陰さまで公民館まつりでは非常に多くの方に来場いただき、館内・館外でも大変な賑わいとなり執行部・役員のご苦勞が報われたと喜んでおります。

最後になりますが、今年一年、輝寿会、親和会、壮年会、子供会、女性部、各組組長の皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。

来年以降も町民の皆様の公民館活動への変わらぬご支援・ご協力をお願いし、公民館活動の益々の発展を祈念しまして挨拶と致します。

一年を振り返って

公民館主事 河嶋 博之

この一年、公民館活動に於いて町民の皆様を始め、町内会役員、組長、各種団

体のスタッフのご協力のもと、無事に公民館行事を行いましたことに、厚く感謝を申し上げます。

今年、年初に皆様にお伝えした様に、「たくさんの方に公民館行事に参加して頂き、また皆さんに楽しんでいただく」という目標を掲げ、実践して参りました。

六月の町民大運動会では、第四十回大会という節目の開催になったことから、町内会長にお願いをして、特別に予算を出して頂き、お楽しみ抽選会の景品をグレードアップし、大変盛り上がりました。

九月の秋祭りは、日中の準備段階で雨が降り続き、仮装輪踊り大会の開催が危ぶまれましたが、始まる直前には皆様の思いが通じたのか、幸いにも雨が止み、無事に開催する事が出来ました。

そして十一月には、公民館行事、最大のイベントであり、我々今年度公民館役員の集大成として望んだ公民館まつりを、皆様のご協力のもと、盛大に開催する事が出来ました。

今年公民館まつりについてのアンケートを町内全軒に配付し「皆さんが、どのような事を望んでいるのか」という声を聴き、企画・運営して参りました。

詳細については、紙面には書ききれませんが、たくさんの方に足を運んで頂き、また多くの皆様から「楽しかった」という声を聞き、年初に掲げた目標を概ね達成出来たのではないかと感じております。

その他、校下の公民館行事もいくつかありましたが、特に記憶に残っているのは、二位以下に一分以上の差をつけて、ダントツの一位だった校下駅伝大会です。

『終わりよければすべてよし』と云いますが、選手の皆様のおかげで、最後の

公民館行事を気持ち良く終える事が出来ました。

最後になりますが、町民の皆様、今年一年、本当にありがとうございました。

一年を振り返って

湯下八幡神社運営委員会委員長

中出 正次

日頃より町民の皆様には、湯下八幡神社の運営、維持管理活動に、多大なるご支援、ご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。

今年度の湯下八幡神社の祭事につきましては、春祭り、秋祭りをはじめとして、諸行事を例年通り無事に執り行うことが出来、残すは平成三十一年元旦祭のみとなりました。

秋祭りの旗竿は、近隣住民の安全を考慮して、大きい旗竿を立てず、小さい旗竿だけ立てることにしました。祭りの三日間は天候に恵まれて、仮装輪踊りが執り行われ、獅子舞や子供神輿が町中を練り歩き、無事終えることが出来ました。

「お宮さん、氏神様ですから」と支えて下さる町民の皆様への思いが、社を守る私達の大きな力になりました。神社のお世話をさせていただいて四年が終わろうとしています。「お宮さん」で学んだことや、多くの方々との出会いは、私にとって大きな喜びとなりました。

多くの方々からのご支援と、ご指導をいただきまして、心より厚く御礼申し上げます。

